

肝切除術における術後肝不全発症予測因子の検討

1. 研究の対象

1994年1月から2019年12月の間に当院で肝切除術を受けられた方。

2. 研究目的・方法・研究期間

肝切除術において術後肝不全は術後経過および予後に大きな影響を与えます。術前に肝不全の発症および予後を予測することは、手術適応判断や周術期管理において重要と考えます。今回、1994年1月から2019年12月の間に当院で肝切除術を受けられた方を対象に、術前・術後の臨床データを解析し、術後肝不全の発症予測因子を検討します。

研究期間は実施承認日～2023年3月31日までを予定しています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

手術前後の血液検査の結果、ICG値、手術時の所見などの臨床データを使用します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65番地

TEL: 052-744-2250

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器外科 猪川 祥邦

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器外科 林 真路